

教22 医療人に必要とされる心の教育（第2報）

○山藤 賢(さんどう まさる)、香取 尚美、嶋津 翔太、岸野 沙耶花、栗林 莉子

昭和医療技術専門学校

昨年の本学会にて、本校独自の人間性教育についてその一端を報告させていただいた。おかげさまで大きな反響をいただき、終了後は学会開催中も含めてたくさんの先生方から質問をはじめ意見交換をさせていただき、先生方の興味がいわゆる技術や知識に偏らない心の教育や実践にも高くなっていることを感じた。また日本臨床衛生検査技師会の宮島喜文会長が行った特別講演では、臨床検査技師の育成において「人間性教育」が足りなかったという反省の話が多くをしめた。その講演中には私と本校のことを名指しでお話いただき、その場で人間性教育の現場での実践や医療現場との乖離についても返答させていただいた。そのような昨年を経て、今年もぜひ本校における人間性教育の話を知りたいという多くの先生方の要望も受けて第2報として発表を行うこととした。現在、全国各地から臨床検査技師教育に関わる先生方が本校に見学に来られる。また私の方でも人材育成の講演に、各都道府県の検査技師会から呼ばれて、コロナも明けたことで毎月のように出かけており、昨年と今年はこれまでで一番多い講演回数となっている。

る。各地では現地で教育に関わる先生方ともあたたかい交流が出来、現場で活躍できるキラキラとした目の人間性豊かな医療人の育成、心の教育に関しても志の高い先生方が多いことに感激した。その上で実践の部分で苦勞しているお話を聞いている。最近では「病んでしまう」という言葉でくられる、学校に通えなくなったり、道をあきらめてしまう学生も多いと聞く。本校では高校時代に学校には行けなかったが、本校入学後には皆勤賞で医療の現場に巣立っていく学生も多くいる。そこには「病まない」学生の育て方もあり、今回も短い時間でほんの触りにはなるが、入学時より学生同士が支え合い、一人の留年生も出さないという学校創り「全員卒業・全員合格」という本校理念からはじまり、私が学校長として自ら講義を行い、参加している講座やワークなど、本校の試みを紹介したい。その話を基調として、また講演時間外でも多くの先生方との意見交換を楽しみにしている。